

普通のことを普通に

小林元裕 (情報文化学科)

・FDに対する批判の声

→ FDは全員で取り組まなくては意味がなく、特定の教員の教育改善・教授法を取り上げて、それを真似てもあまり意味がない。教授法はその教員にとって「芸」の一つであり、個人技である。専門、科目によっても教授法は異なる。

→ その通り。

・国情の授業 (講義)

→ 国際と情報といういま現在を対象とする学問、常に情報の更新、最新の情報が求められる (勿論、変わらない基礎原理もある)。

→ 授業で教える内容そのものよりも、その教え方に違いが現れる。

・学生にどう教えれば、彼等の考える力を高めることができるのか、退屈させないで授業に集中させられるのか。

→ 何か目新しい方法を導入しても、長続きさせることは難しい。

→ 教員が話して、板書し、学生がノートを取り、考える、この基本スタイルはどのような新しい教授法を導入しても変わらない基本である。すなわち「普通のことを普通に」、「基本的なことを基本的に」やるのがもっとも効果的であり、効率的といえる。

・具体的な方法 (「中国文化論」の授業から)

→ 授業を大きく3つに分け構成する。

①話 (資料、映像)、②板書、③作業 (考える、コメントシート記入)

→ ①資料、映像を利用して視覚化することで話の理解を促進する。

→ (例) 中国人の服装は? チャイナドレスは中国人の伝統服なのか?

②学生がノートをとる能力は近年、極めて低下している。

(漢語理解能力、日本語能力の低下)

→ できるだけ項目化して簡潔に板書する。

資料がある場合は、それを見ながらノートを自分でとるよう促す。

パワーポイントは情報量が多すぎ、ノートをとるスピードが追いつかない。

③コメントシートには感想でなく、答を書かせるようにする。

→ (例) 「中国人」とは何か、「日本人」とは何か定義しなさい。

→ 次の回の授業でコメントシートを紹介する。

コメントシートを利用することで、学生に考えさせ、それに教員が返答する。

以上